

第692回番組審議会報告

2024年10月1日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長、木戸哲委員、小島幸保委員、
津村記久子委員、増山実委員、安田真奈委員

■毎日放送出席者

虫明社長、宮田副社長、高山常務、酒井常務、磯澤取締役、北野取締役、
中野取締役、田淵総合編成局長、東田制作局長、奥田コンプライアンス局長、
東郷広報部長、中西番組審議会事務局長

◆報告事項

- (1)テレビの10月改編の概要について、総合編成局長が報告した。
- (2)放送番組種別の公表制度に基づき、2024年度上期（4月～9月）の番組種別ごとの放送時間を総合編成局長が報告した。あわせて同期間のCM総量および10月以降の基本番組表についても報告した。

◆議事の概要

- (1)テレビの10月改編について

改編率は昨年10月が8.3%と小幅、今年4月は13.8%と高くなっていたが今回は8.4%と再び小幅に留まった。ゴールデン（19時～22時）では9.0%、プライム帯では13.4%。MBS初の全国ネットアニメ番組「ダンダダン」をスタート。日曜夕方5時から「シャングリラ・フロンティア 2nd Season」を放送する。10月からの自社制作率は24年度上期から0.2ポイント下がって27.1%になる。

- (2)「放送番組の種別」の報告について

2024年度の上期は総放送時間が6万0,361分。報道番組1万2,127分（総放送時間の20.1%）、教育8,252分（同13.7%）、教養1万5,541分（同25.7%）、娯楽2万189分（同33.4%）、通販3,763分（同6.2%）、その他489分（同0.8%）。前年同期と比べて教育、教養、通販が増加し、報道と娯楽が減少している。また、この半期のCM放送実績は1万358分で、総放送時間に対する割合は17.2%。

◆審議事項

テレビの「全国ネット番組」（主に2024年度上期の番組）について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

一 『news 23』

- *とても落ち着いた雰囲気、スタジオに呼んだゲストの方にもきっちり質問しているので、すごく安心して見ていられる。
- *NEWS DIGというアプリを一生懸命活用しようとしているが、「この問題どう思いますか」と『news 23』の中で問いかけていながら結果がどうだったのかわかりにくい。
- *9月26日の袴田巖さん事件の報道で、くり小刀を売ったというお店の奥さんとその息子さんが出てきて話していた。基本的にこの事件の報道ではほぼ巖さんと秀子さんの印象しかなかったが、短い振り返りの中で刃物を売った人も存在すると気づかされた。

一 『ラヴィット！』

- *テレビが社会に与える影響が大きい公器と考えると、主に主婦層に向けて、朝の時間帯にあまりにも中身が薄い感じのものを、面白いからといって放送局が電波を使って流すのはどうなのかと思う。何となく流すものは、YouTubeにお任せすればいいのではないか。

一 『情報7days ニュースキャスター』

- *1週間のニュースをテンポよく紹介するのが見やすい。
- *コメンテーターがふたりなのでもう少しコメントが欲しいという印象。専門分野の人にもう少し語ってほしかったという物足りなさを感じる。

一 『ゴゴスマ』

- *ほぼ毎日見ている。関心のあるニュースが網羅されているので、基本的にいま起きていることは『ゴゴスマ』を見たら何となくわかるのと、ほかの番組に比べてコメンテーターさんたちが比較的仲がよさそうなので安心して見られる。
- *独自にリュウゼツランの観察をしているのをすごく楽しみに見ている。ニッチなところをフォローするところも毎日見続けられる楽しさにつながっていると思う。
- *石井さんが抑制があつていい。時々面白いことを言うし、コメンテーターに

も上手に振るので、とても好感を持って見られるニュースショーだと思う。

—『西園寺さんは家事をしない』

*いい人しか出てこないまさにハートウォーミングなお話で、このようなドラマは久しぶりに見た。このようなドラマのニーズがまだあるということは、暗く深刻なドラマが多い中で、残しておくべき一つの方向性を感じた。

*このタイトルだけで見るのをやめてしまっていた。内容がどうというより、「家事をしない」というメッセージに相当きついものがあると個人的に感じた。

—『不適切にもほどがある！』

*令和の時代が文化的にすごく成熟していながら、いろんな意見や思っていることが素直に言いにくくなっている世の中だということがわかるすごくいいドラマだった。

*ドラマの主題歌をCreepy Nutsさんが担当していて、ドラマの視聴者層を広げるのに一役買ったのではないかと思う。

*ジェンダーやハラスメントについて取り上げていたが、不安な点がいくつかあった。中高年層がこのドラマを見て、最近はハラスメントとうるさいな、昔はよかったというふうに間違った方向に溜飲を下げてしまいそうな危険があると思うシーンがいくつかあった点と、インティマシーコーディネーターという仕事について、揶揄するような雰囲気の様子がされていたのは、あまり好ましくなかったと思う。

—『9ボーダー』

*19歳と29歳と39歳の姉妹が3L、LIFE、LOVE、LIMITを乗り越えていくテンポの速い番組で、家族で見る番組としては非常によかった。

*家族で見るような番組を10時台に持ってくる必要があるのか。ドラマを見る若い人が少なくなっているからこういう時間帯になっていると思うが、例えば夕食後の時間帯に優れたドラマを編成する方がいいのではないか。

—『笑うマトリョーシカ』

*いろいろな人が出過ぎて、どんな話だったかなと途中からついていくのに苦労した。何かもったいない感じがした。

—『マツコの知らない世界』

- * 9月17日放送分の「大学応援団の世界」は応援団の復活に関してコスパ対価でない魅力という発言があったり、自分たちがどう思われているのかということを知って言う感じが面白かった。
- * 北大の寮の空撮を「東京拘置所じゃねえかよ、これもう」と言ったり、マツコさんのコメント力はすごいと思う。
- * いろいろな人のニッチな突き詰めたものを、マツコさんを通じて笑いも加えつつ広く知らしめるとても素敵で、「人生って楽しいことをいっぱい見つけられるし、頑張ってる人がいるんだな」と気づかされる番組だ。
- * プレゼンターの方が多少言い過ぎた時に、マツコさんが「それは言い過ぎでしょう」と言いつつ、いい感じに進行していくのがとてもいい。マツコさんのキャラクターに救われ、引っ張ってもらっている番組だと思う。

—『水曜日のダウンタウン』

- * 「インフォーマー1-GP」芸人さんのネタがすごくクオリティーが高く面白かったが、そもそもテレビ局が番組を通して「インフォーマーシャルってつまらないよね」と誰もが思っていることをはっきりと口にして言ってくれるのが小気味がよく、共感が得られたポイントだと思う。
- * 「コロナ対策、いまだに現役バリバリの現場があっても従わざるを得ない説」コロナ対策を振り返って、あれはちょっと変だったよねと笑える作りになっていた。言いにくいことをいかに番組や出演者が視聴者に代わって代弁することが共感を得るために大切と感じた。批判も受けやすい番組だと思うが個人的には攻めの姿勢を継続してコンテンツを作ってほしい。

—『ハマダ歌謡祭・オオカミ少年』

- * ベテラン世代が2000年以後のヒット曲を歌えるかどうか、2000年以後に生まれた若い子たちが70年代とか80年代にヒットした歌を歌えるかどうかを競い合う番組がすごく見やすく、肩肘張らずに楽しく見られた。歌に限らず他にも違う世代がお互い楽しめるような番組が作れるのではないかな。

—『ジョブチューン』

- * 9月28日の放送でリンガーハットの社長の評価がどうなっているのか SNS を覗いてみると、「真っ向から自社商品のプライドを持って説明するのはすごい」という意見と、「パワハラムードが漂って、出すべきじゃない」という真反対の意見に分かれていた。大きな企業を取り上げると世間へのインパ

クトも大きい番組制作上のような配慮をしているのか聞きたいと思った。

—『S☆1』

* 9月28日、巨人が優勝した日に特に地区優勝や大記録を達成したわけでもないにもかかわらず大谷翔平選手について延々と15分放送していた。巨人の優勝についてはわずか1分もなく、アリバイ的にやってあっさり終わったのを見て、あまりにもバランスを欠いているんじゃないかと思った。

—『坂上&指原のつぶれない店』

* 9月22日の放送でイオンを特集していた。最初のほうはとても面白く見られたが3時間のうち2時間ぐらいイオンを特集していたのでさすがにきついなという感じがした。

—『所さんお届けモノです!』

* 物作り日本一の街でプロに聞くという企画はすごくリスペクト感があり構成も丁寧で、テンポもよく楽しく拝見した。初めて聞くようなワードも、時折図説などをテロップにうまく織り込みながら上手に補っていた。

* 少し高めの商品を真飛さんが「これ、いただけませんか」と言うのに対し工場の方が「あ、はい、どうぞ」と戸惑っていて、テロップも真飛さんの赤文字に対し、工場の方は青い細い困惑しているような文字だった。おねだりするところを電波にわざわざ乗せる必要があるのかなと思った。

以 上